

平成30年度 岡山県立岡山大安寺中等教育学校 学校評価書（別紙）

最終評価

学校経営 重点目標	具体的方策	担当部署	評価指標・評価基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		関係者評価	
				達成状況	評価	達成状況	評価		
国際バカロレアの教育プログラムの趣旨を踏まえたカリキュラム開発と教育活動の実践を行う。また、国際的に通用する英語力を身にさせる。	適切なワークショップを選定し、国際バカロレアの教育手法の研究を行う。	国際バカロレア研究委員会 授業力向上委員会	全体で共有できるように研修会等を実施し、国際バカロレアの教育手法を本校の教育に活用する方策を検討する。 ワークショップに参加した者を講師として、研修会が実施でき、全体で共有できた場合を評価B、さらに、活用法の検討を実施できた場合をA、どちらもできなかった場合をCと評価する。	MY Pワークショップの伝達講習(10/5)、I B教育講演会及びワークショップ(10/18)を実施予定。報告会ではワークショップ参加教員3名を講師にI B概論、ATL、課題探求に関して、講演会ではI Bの観点に基づいた授業作りについて研修を行う。	未	MY Pワークショップの伝達講習及びI B教育講演会の参加者は8割を越え、座談会では24人の参加者のもとI B教育の概念や手法について理解を深めることができた。	A	各学期に同教科グループ/異学年異教科グループごとに授業互見を行い、授業観点や手法について協議を行い、研鑽を積む場とした。	
	先進校視察を行い、全体で共有する。	国際バカロレア研究委員会 授業力向上委員会	全体で共有できるように報告会等を実施し、そこで得た内容を元に、本校の教育に活用する方策を検討する。 報告会が実施でき、全体で共有できた場合を評価B、さらに、活用法の検討を実施できた場合をA、どちらもできなかった場合をCと評価する。	先進校視察に行った教員による報告書の配布、報告会を実施。職員室には入手した資料を閲覧できるミニ図書コーナーを設置。教員全体での共有を図ることができた。	B	I B通信を13号まで発行し、概念の理解を図った。また授業互見で行ったアンケートの集計結果を掲載し、本校で望まれる学習者像や観点の共通認識を高めた	A		本校における10の学習者像のキャラクターを作成し、授業等で使用できる環境を整えた。
	国際的英語指導資格取得のための研修を受講する教員を選定し、資格取得を目指す。	国際バカロレア研究委員会 授業力向上委員会	受講者全員の80%が取得できた場合を評価Aとし、半数以上が取得できた場合を評価B、それ未満の場合を評価Cとする。	英語教員5名がCambridge CELTSの通信コースを受講中。受講終了予定は2019年2月頃。	未	受講内容を活用した授業実践を行い、受講者同士、本校教員による参観を受け、具体的な手法の伝搬に貢献した。	B 一部未		受講中の英語教員5名の全員が8割の内容を受講済みで有り、2月に行われるinput daysや授業公開、及びT O Kの試験に向けて準備中である。
	外部検定により生徒の英語力を測定する。	国際バカロレア研究委員会 授業力向上委員会	CEFRの高いレベルの指標が評価できるTOEFLなどの検定を24名受検させ、CEFRのB2以上の評価を得た生徒が70%以上で評価A、40%以上で評価B、それ未満の場合を評価Cとする。	2019年3月を中心に、Cambridge英検、IELTS、TOEFLを後期課程生24名が受験予定。	未	Cambridge英検12名、IELTS 7名、TOEFL 5名が2月初旬から3月中旬にかけて受験登録を行った。受験結果については今年度中には全ては届かない予定である。	未		
LHRや総合的な学習の時間、各教科の授業において探究的な学習に資する図書館の利用を増やす。	メディアセンター	授業で図書館を利用した教員の数を前期課程20名以上・後期課程10名以上、かつ、クラス平均の授業利用回数を前期課程10時間以上・後期課程5時間以上を目指す。 A：前期、後期ともに達成 B：どちらか片方の期のみ達成 C：前期、後期ともに未達成	1学期終了時点で授業利用教員数は、前期13名・後期6名であり、クラス平均の授業利用回数は前期6.1時間、後期1.5時間と大きく偏っている。2学期以降は特に後期の使用を促したい。	B	2学期終了時点で、授業利用教員数は前期16名・後期15名、クラス平均の授業利用回数は前期11時間、後期7時間である。目標値には、前期課程の授業利用教員数が4名足りていないが、3学期には十分クリアすることが期待できる。	A			

平成30年度 岡山県立岡山大安寺中等教育学校 学校評価書（別紙）

最終評価

学校経営 重点目標	具体的方策	担当部署	評価指標・評価基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		関係者評価
				達成状況	評価	達成状況	評価	
国際バカロレアの教育プログラムの研究を核として、探究的な学習者を育成する。	互いの違いを認め合う、一人一人の個性を生かした集団づくりを行う。		昨年度 授業で図書館を利用した教員数 前期課程18名、後期課程8名					
		生徒課	<p>学校行事に積極的に参加し、仲間と協力できたか。 A：「よくできている」「だいたいできている」が全校の90%以上 B：上記が85%以上90%未満 C：Bに満たない (評価は、全行事の平均で行う。)</p> <p>対象 1年…球技大会・オリキャン・白鷺祭 行事 2年…球技大会・長距離ウォーク・白鷺祭 3年…球技大会・白鷺祭 4年…球技大会・白鷺祭 5年…球技大会・長距離ウォーク・白鷺祭 6年…球技大会・白鷺祭</p> <p>昨年度 1学期球技大会…97.6% オリエンテーションキャンプ…97.5% 長距離ウォーク…96.3% 全体…97.1% (1学期末)</p> <p>白鷺祭…94.6% 2学期球技大会…91.1% 全体…95.0% (1, 2学期通算)</p>	対象行事以外にも、より自己有用感を得られるよう、顧問の先生方には各種委員会等において生徒が主体的に取り組むように後押しして頂いている。アンケートを実施できていないので数値的に判断できないが、多くの生徒が積極的に参加できていると思われる。休みがちな生徒も各行事には参加出来る生徒もいる。2学期に実施のアンケート結果を踏まえて、より積極的に参加し、より仲間と作り上げることが出来る行事になるように改善策を考えていきたい。	未	1学期球技大会…93.8% オリキャン…97.5% 長距離ウォーク…95.1% 白鷺祭…95.5% 2学期球技大会…95.8% 全体…95.5%	1学期球技大会が若干数値が低くなったが、全体としては今年も高い数値となった。ただ、クラスごとに見ると高低があり、行事を行う中でクラスの間関係等でトラブルが発生した場合、前期課程はもとより後期課程でも教員が適切に介入を行う必要がある。	A
		厚生課	<p>各学年ごとに早朝ボランティア清掃を行う(回数は学年ごとに決定)。毎回の参加者数をカウントし、学年で30名以上の参加を目指す。全学年の全回数の平均参加者数が30名を100%として、以下のように評価する。</p> <p>A：90%以上 B：70%以上 C：Bに満たない</p> <p>昨年度 年間・・・前期28名、後期18名、全体25名という結果であった。</p>	天候の関係で、実施できていない学年もあるが、実施できた学年については、50～70%程度の達成率である。(6年6月14日5年5月17日4年4月20日3年6月6日約30人、2年6月13日56人、1年天候不良のため実施不可) 2学期以降の課題にして90%を目指していきたい。	C	天候の関係で実施できていない学年もあるが、全体としては年間14回の清掃ができた。特に前期課程の生徒ががんばってくれた。 参加人数486人÷14回=34.7人	A	
教育相談室	<p>(前期)教育相談事前アンケートやhyperQU検査等・いじめ悩みに関するアンケート調査の結果分析を活かした生徒面談や支援ができる。</p> <p>(後期)ASSESSやいじめ悩みに関するアンケート調査の結果を活かした生徒面談や支援ができる。</p> <p>A：アンケートとQU検査等の分析の両方を活用して面談・支援ができる B：いずれかの結果を活用してできる C：活用できない</p> <p>昨年度 A</p>	前後期とも、一学期に心理検査を実施し、結果を生と理解や支援に役立てている。細やかな支援が引き続き行われており、生徒は落ち着いており、問題行動や不登校はきわめて少ない状態が保たれている。	B	今年度はいじめ悩みに関するアンケートを2回実施し、実態把握に努めるとともに、結果が気になる生徒との面談を行った。生徒はおおむね落ち着いた学校生活を送ることができた。	A			

B

平成30年度 岡山県立岡山大安寺中等教育学校 学校評価書（別紙）

最終評価

学校経営 重点目標	具体的方策	担当部署	評価指標・評価基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		関係者評価
				達成状況	評価	達成状況	評価	
	生徒が知識と体験を融合できる機会を企画する	グローバル教育推進室	各学年のグローバル行事において、事前指導で生徒にねらいを伝える。それを踏まえ、生徒が各行事の自己目標をたてる。行事終了後、生徒が、自己目標に対する達成度を自己評価（点数で評価）し、それを集計する。 A：生徒達成度平均80点以上 B：生徒達成度平均60点以上 C：Bに満たない 昨年度 4年生：81.2% 3年生：78.2%	4年生「はばたけ！大安寺生」と「教えて先輩」での成果発表：達成度85.2% 3年生「海外事情研究」：達成度80.5%	A	4年生「はばたけ！大安寺生」と「教えて先輩」での成果発表：達成度85.2% 3年生「海外事情研究」：達成度80.5%	A	
	あたたかな学校風土づくりを目指した心の教育・ユニバーサルな環境づくりの推進	教育相談室	（前期）「品格教育」や「PBIS」「SEL」「ピア・サポート」等の活動を教科や学年団と協力して推進する。 （前期・後期とも）「相談室便り」を活用した心を育む情報提供を行う。 また、特別支援・人権に配慮した環境づくりに努める。 A：各学期ごと（品格教育は毎月）に活動し、活動に広がりや深まりができ、あたたかな学校風土・安心安全な環境が保たれる。 B：各学期ごとにおおむね活動できる。 C：Bに満たない 昨年度 A	「品格教育」はポスター等での呼びかけや、クラス担任による声かけにより、日々の生活の中で心がけられ、実践されている。また各学年ごとに生徒の心を育む取り組みを意識し、実態に合わせた実践（「PBIS」「ピア・サポート」等）を工夫している。「相談室便り」は計画通り発行し、情報提供できている。	B	「品格教育」に関してはおおむね活動できていたが、「PBIS」「SEL」「ピア・サポート」についてはさらなる研修や学校全体での実践が望まれる。「相談室便り」に関しては計画通り発行できた。	B	
	グローバル社会で活躍できる人材を育成するために、家庭学習の大切さを理解させ、自ら考え行動できるような主体的な学習を実践させる。また、広い視野を持って物事を考え、各種コンテスト等に積極的に挑戦するチャレンジ精神を醸成する。	進路指導課	1・2年 平日2時間、休日4時間 平均150分 3・4年 平日2時間、休日4時間 平均150分 5・6年 平日3時間、休日5時間 平均200分 の学習時間達成率 A：達成率 60%以上、B：達成率 50%以上60%未満、C：Bに満たない。 ※ただし、上記の数字に表れない要素も評価指標の内容に加え、総合的に評価していく。	2学期に、テストがない日の学習時間の調査や主体的な勉強ができていると思うか等のアンケートを実施する予定であり、その結果を含めて評価していくつもりなので現段階では評価を出すのは難しい。しかし授業等の取り組み具合からは、学年が上になるほど主体的な勉強が比較的できているのではないかと考えている。	未	学校評価アンケートにおける生徒の勉強時間に関する評価は、1年=B、2年=B、3年=B、4年=C、5年=B、6年=Aであった。 11月に実施した進路アンケートの結果によると、目標の勉強時間が達成できていると答えた生徒の割合は、1～5年生=2～3割程度、6年生=7割程度であった。受験生である6年生の多くは目標の勉強時間を達成できていた。また、自分が主体的に勉強できていると答えた生徒は、「そう思う」「ややそう思う」で、1年生=90%、2年生=80%、3年生=75%、4年生=59%、5年生=74%、6年生=84%であった。中学年である3・4年生で中だるみの傾向が見られた。 4年生が数学のコンテストで3月にオランダで行われる世界大会に出場する予定であるが、そういうものにチャレンジしようとする雰囲気徐徐に拡大していると思われる。また、授業や課題における生徒の取り組み具合や上記の点を総合的に評価し、中だるみが見られる学年もあるものの、6年生を中心に頑張が見られる。	B	

平成30年度 岡山県立岡山大安寺中等教育学校 学校評価書（別紙）

最終評価

学校経営 重点目標	具体的方策	担当部署	評価指標・評価基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		関係者評価
				達成状況	評価	達成状況	評価	
			昨年度 1年=A, 2年=B, 3年=C, 4年=B, 5年=B, 6年=A					
考え議論する「道徳」を実現する。	道徳の教科化に向け、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、授業力を高める。	道徳教育研究主任を中心に、授業改善について研究し、考え議論する道徳の実現を目指して、研究授業を実施する。	道徳教育推進委員会 研究授業を年2回実施し、参加者による感想等を元に評価する。 A 大安寺の授業スタイル、評価方法が確立でき、全教員が認識している。 B 大安寺の授業スタイル、評価方法がある程度確立している。 C Bに満たない。	2学期と3学期に全県公開授業を実施する予定である。評価方法については、現在さまざまな方法を取り入れて検討中である。これを踏まえ、2回の研究授業および研究協議の後、教員の認識について確認する。	B	スーパーバイザーの指導の下、評価材料を集めるのための取組や授業づくりのスタンダードを確立した。全教員への周知のため、公開授業や協議、校内研修を行った。	B	
	社会貢献意欲を醸成し、健全な社会性を育成する。	集団の一員としての自覚を持ち、常に自分が人のために何ができるかを考えさせる。	生徒課 年間3回ある「大安仁の日」の通算参加率 A：55%以上 B：45～54% C：44%以下 昨年度 第1回46.6% 第2回35.9% 第3回49.6% 通算44.0%	猛暑の関係で第1回目は中止となった。しかしながら、今回の西日本豪雨関係で個人的、部活動単位でボランティアに参加した生徒が数名いる。また、今年は夏季補習と重なったが、「夏ボラ」に参加したいと申し出た生徒も数名いた。	未	第2回…44.6% 第3回…47.5% 通算…46.1%となった。その他にも個人的におかやまマラソンのボランティアに多くの生徒が参加したり、3学期始業式時に生徒会長から6年生のセンター入試に当たり、何かしたいという申し入れがあり、下級生が拍手で激励するという光景も見られたりするなど、生徒の中で自分に何ができるかを考える土台ができつつある。	B	
時間外勤務時間を前年度比で10%縮減する。	本校の働き方改革プラン①・②・⑤・⑦の実施を図る。	主幹教諭 教務課 ① 最終退校時刻20時 ② 全体の定時退校日は4月6日、12月7日、3月2日とする。 各自、月1回以上定時退校日を設定する。 ⑤ 部活動活動時間を「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」に基づいて実施。 ⑦ 大安寺ノートの見直し 重点目標の10%を削減できていればA、5%以上10%未満をB、5%未満をCとする。	① 最終退校時刻20時 ② 全体の定時退校日は4月6日、12月7日、3月2日とする。 各自、月1回以上定時退校日を設定する。 ⑤ 部活動活動時間を「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」に基づいて実施。 ⑦ 大安寺ノートの見直し 重点目標の10%を削減できていればA、5%以上10%未満をB、5%未満をCとする。	・5時カエルを作成配布。 ・職員会議の開始時刻を早め、報告連絡事項を絞ることで時短を図ることを検討。2学期から実施予定。 4月～8月で、時間外勤務実績前年度比96.3%。	C	職員会議の開始時刻を早め、報告連絡事項を精選したことで、会議終了時刻は確実に早くなった。 9～12月で、時間外勤務実績前年度比108.5%、4～12月で101.7%と中間評価より時間外勤務時間が増加した。 1月からミライムが導入され、超過時間が各自黄色や赤で示されており、自覚が促されることを期待する。	C	